

1. 件名：新規基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（女川原子力発電所2号炉工事計画）（174）
2. 日時：令和3年7月9日 13時30分～17時50分
3. 場所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）
4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

植木主任安全審査官、皆川主任安全審査官、服部安全審査専門職、

山浦技術参与

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

堀野技術参与

東北電力株式会社：

原子力本部 原子力部 課長、他1名

原子力本部 原子力部 副長、他8名※

5. 要旨

- (1) 東北電力株式会社から、女川原子力発電所2号炉の工事計画補正申請のうち、「格納施設の耐震計算書」、「使用済燃料貯蔵ラックの設計用減衰定数」等について、提出資料に基づき説明があった。
- (2) これに対し、原子力規制庁は以下の点について指摘等を行うとともに、今後、説明内容について引き続き確認することとした。

<原子炉格納容器電気配線貫通部の耐震性についての計算書>

- 原子炉格納容器電気配線貫通部の耐震評価について、応力評価点の選定の考え方を整理して説明すること。

<原子炉格納容器電気配線貫通部の設計荷重について>

- 原子炉格納容器電気配線貫通部に作用する設計荷重について、算出例で示している原子炉格納容器電気配線貫通部の代表貫通部の選定の考え方を整理して説明すること。

<逃がし安全弁搬出入口の耐震性についての計算書>

- 逃がし安全弁搬出入口取付部について、評価に用いる設計用地震力と算出応力の関係を整理して説明すること。

- (3) 東北電力株式会社から、(2) について了解した旨の回答があった。

なお、本面談については、事業者から対面での面談開催の希望があったため、「緊急事態宣言を踏まえた原子力規制委員会の対応の変更について」（令和3年4月28日 第6回原子力規制委員会配付資料3）を踏まえ、一部対面で実施した。

6. その他

提出資料：

- (1) 補足-600-40-25 クラスMC容器における一次+二次+ピーク応力の取り扱いについて（O2-補-E-19-0600-40-25__改0）
- (2) VI-2-9-2-4-2 原子炉格納容器電気配線貫通部の耐震性についての計算書（O2-E-B-19-0123__改0）
- (3) 補足-600-40-26 原子炉格納容器電気配線貫通部の設計荷重について（O2-補-E-19-0600-40-26__改0）
- (4) VI-2-9-2-1-1 ドライウエルの耐震性についての計算書（O2-E-B-19-0248__改0）
- (5) VI-2-9-2-1-3 原子炉格納容器シヤラグの耐震性についての計算書（O2-E-B-19-0249__改0）
- (6) VI-2-9-2-2-1 機器搬出入用ハッチの耐震性についての計算書（O2-E-B-19-0250__改0）
- (7) VI-2-9-2-2-2 逃がし安全弁搬出入口の耐震性についての計算書（O2-E-B-19-0251__改0）
- (8) VI-2-9-2-2-3 制御棒駆動機構搬出入口の耐震性についての計算書（O2-E-B-19-0252__改0）
- (9) VI-2-9-2-3-1 所員用エアロックの耐震性についての計算書（O2-E-B-19-0253__改0）
- (10) 女川原子力発電所第2号機 使用済燃料貯蔵ラックの設計用減衰定数について（令和3年7月6日提出資料）
- (11) 女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表（耐震評価：使用済燃料貯蔵ラックの減衰定数）（O2-他-F-19-0014__改4）（令和3年6月18日提出資料）
- (12) 補足-600-13 使用済燃料貯蔵ラックの設計用減衰定数について（O2-補-E-19-0600-13__改4）（令和3年6月18日提出資料）

以上